



1



2

3

4



5

## 田植えイベントが最盛期 競って、感じて、触れ合って、学んで守る 千厩高校で田植え大会、本寺で田植え体験交流・景観保全

Pick-Up 1

■千厩高校の田植え大会は5月25日、同校農場で開かれました。同校の農業クラブが主催した同大会は、今年で4回目。1チーム3人編成、教職員チームを含む9チームがエントリーしました。「生産技術科以外の人たちにも田植えの楽しさを知ってほしい」と語るのは農業クラブ会長で生産技術科の矢尾板祥之さん(3年)。レースは、泥に足を取られて思うように植えられないところがおもしろい。「リレーには農業クラブを代表して参加します。名誉がかかっているから負けられない、手

は抜きません」と意気込みを語りレースに臨んだ矢尾板さん。見事トップでゴールしました。

■骨寺村荘園お田植え体験交流会(本寺地区地域づくり推進協議会主催)は5月27日、遺跡内の水田で催されました。昔ながらの農村景観と伝統を守る取り組みは今年で8回目。初夏の青空の下、荘園オーナー、学生や地元の住民ら170人を超える参加者が、地元農家の手ほどきを受けながら苗を手植えました。盛岡市から参加した岩手大大学院生の佐々木優希さん(22)は「骨寺村は初めて。思ったより早く作業が進み、もっと植えたいくらいでした。秋の稲刈りにもぜひ参加したい」と語っていました。

■国学院大生と本寺地区住民らによる田植えは6月3日、骨寺村荘園遺跡内の水田で行われました。昔ながらの小区画水田と農村風景を守り伝えようと、2006年から同大歴史地理学の吉

田敏弘教授と学生が主体となって始めた活動。11年から「骨寺村荘園小区画水田保存会」(佐藤正人会長)が中心となり、学生らと一緒に取り組んでいます。同日は吉田教授と学生、OB、地区民、一般参加者ら約50人が参加。地元農家の手ほどきを受けながら古代米「亀ノ尾」などの苗を植えました。同大2年の中村優里さん(19)は「里山の奥にある田んぼが印象的。苦手なカエルや虫が気にならないくらい、まっすぐ植えることに夢中になっていました。稲刈りにもきっと来ます」と田植えを満喫した様子。吉田教授は「小区画水田は大事な宝。復田など地元の取り組みに期待しているし協力も続ける」と話し、佐藤会長も「地元の参加者はみんな、骨寺の景観を守ってこうとする志を持っている。吉田教授の期待に応え、若い世代にも思いをつなげたい」と意欲を語っていました。

1)骨寺村荘園お田植え体験交流会の早乙女/2)千厩高校の田植え大会/3)骨寺村荘園お田植え体験交流会で田植えをする本寺小児童/4)国学院大生と地区住民らによる小区画水田の田植え/5)国学院大生と地区住民ら参加者の記念撮影



1



2



3



4

## 参加率 73.6%で秋田県大仙市太田町に勝利 合併後初の参加で金メダルも獲得 藤沢町で「チャレンジデー2012」

Pick-Up 2

チャレンジデーはカナダ発の世界的スポーツ・レクリエーションイベント。毎年5月の最終水曜日、午前零時から午後9時までの間に、15分以上継続して体を動かした住民の割合を人口規模がほぼ同じ自治体同士が競い合います。日本では笹川スポーツ財団が主催。今年は5月30日に行われました。

合併後初参加となる藤沢町は、秋田県大仙市太田町と対戦。早朝のゴミゼロウォーク(町内一斉クリーンアップ清掃)でスタートし、▶第38回長寿さわやか運動会▶ゲートボール大会▶グラウンドゴルフ大会▶ラジオ体操▶ストレッチ体操▶縄跳び▶綱引き練習一など、学校、職場、自治会、商店街などを単位にそれぞ

れ趣向を凝らしたスポーツ・レクリエーション活動が繰り広げられました。

その結果、午前零時から午後9時までの藤沢町の参加者は6,670人(人口9,067人)で参加率は73.6%を記録。太田町の4,044人、57.7%(人口7,004人)を大きくは上回り、堂々勝利しました。また、61%以上の高い参加率を記録した団体に贈られる「金メダル」も獲得しました。

大詰めを迎えた午後8時、藤沢運動広場では「ふじさわ」の文字に並べられた竹灯籠1500個に点火。闇に浮かぶ幻想的なオレンジ色の光がイベントのクロージングを幻想的に彩りました。



6

1)長寿さわやか運動会開会式の様子。参加者全員でラジオ体操を行った/2)声援を受けて走る選手たち/3)「すばく藤沢」ではゲートボール大会が行われた。選手たちは日頃鍛えた技を競った/4)年齢を感じさせない元気なプレーで会場を沸かせた老人クラブの皆さん。写真はボール送り/5)藤沢小学校は全校児童が縄跳びに挑戦/6)イベントのクロージングを幻想的に彩る1500個の竹灯籠。藤沢地域の各自治会が手作りで持ち寄った



5